

日本歯科医史学会二〇周年の歩み

谷津三雄

日本歯科医史学会は、昭和四一年（一九六六）一月七日午後六時から湯島会館（現ガーデンパレス）で発起人会を開き、その席上で「歯学史集談会」発足させることを決定した。そして第一回歯学史集談会が、昭和四二年（一九六七）一月二八日午後二時から日本大学歯学部大学院小会議室で行われた。この歯学史集談会は、昭和四五年（一九七〇）四月から「歯学史研究会」と改められ、さらに昭和四八年（一九七三）四月「日本歯科医史学会」と改称された。翌四九年（一九七四）一月二六日付で、日本歯科医学会の第一三分科会として公認され、全国的な学会となった。

なお、昭和四三年に第六九回日本医史学会総会が蒲原宏先生が会長で新潟で行われた時今田先生は第七〇回の日本医史学会総会を発足まもない歯学史集談会が主催し、第七〇回日本医史学会総会（日本医学会第一分科会）、第一一回蘭学資料研究大会、第二回歯学史集談会総会の合同学会が、会長鈴木勝、副会長今田見信、準備委員長谷津三雄で昭和四四年五月二三日の三日間にわたり行うことを決定してきた。

準備室を日本大学歯学部長室におき、日本大学歯学部大学院大講堂を会場とし、しかも当時なお学園紛争の後遺症が継続するなかで、三日間にわたり開催されたのである。このことは今田見信先生追悼号『日本歯科医史学会誌』第五卷第三号、一九七七年一月号）の小川鼎三先生の言葉の中に「今も濃い印象が残りますのは昭和四四年の七〇回総会を会長鈴木

勝氏、副会長今田見信氏のもとで日本大学歯学部大学院講堂にて開いたときのことであります。学生運動の激しいときで会場の近くで騒動がおきましたが、主宰者がわの御尽力で一糸も乱れず成功裡に総会を終ることができました」の一文より準備委員長をした当時が大変懐かしく思われてならない。ちなみに合同学会会費は三〇〇円（三日間有効）、懇親会費一五〇〇円で、正に今昔の感が深い。

機関誌の発行

それに伴い機関誌も、昭和四四年（一九六九）二月創刊の『歯学史研究 (Studium Historiae Dentarie)』から『日本歯科医史学会々誌 (Journal of the Japan Society of Dental History)』と改称された。その第一巻第一号が昭和四八年（一九七三）八月に発刊された。誌名は改められたが、創刊の『歯学史研究』以来の通巻号数を添えることにし、この第一巻第一号は通巻第六号となった。さらに、昭和五二年（一九七六）より年四回発行し、平成三年（一九九一）一〇月発行は第一八巻第一号、通巻六六号である。

学術大会（総会）の開催

これまでの日本歯科医史学会総会（学術大会）の会長、会場、開催年月日をあげると次のようになる。

第一回日本歯科医史学会総会（昭和四八年度学術大会）は、昭和四八年一〇月二七日に、会長は山田平太理事で、東京医科歯科大学で行われた。一般演題数一八。会長講演「口中科の歯冠修復術について」山田平太。特別講演「人類における歯の進化」東大教授植原和郎。

第二回日本歯科医史学会総会（昭和四九年度学術大会）は、昭和四九年五月二六日に、会長は栖原六郎教授で、日本大学松戸歯科大学（現松戸歯学部）で行われた。一般演題数一〇。会長講演「わが国における口腔生理学のあゆみ」栖原六郎。

第三回日本歯科医史学会総会（昭和五〇年度学術大会）は、昭和五〇年一〇月一九日に、会長は小野尊睦教授で、京都大学で行われた。一般演題数一五。会長講演「病巣感染論の史的変遷」小野尊睦。特別講演「医学史を考える」大阪大学助

教授中川米造。

第四回日本歯科医史学会総会（昭和五一年度学術大会）は、昭和五一年五月二三日に、会長は関根永滋教授で、東京歯科大学で行われた。一般演題数一五。特別講演「鑄造の歴史」東京歯科大学理学工学教室金竹哲也。会長講演「歯肉療法を中心にした変遷史」であったが、会長が急逝されたので遺稿を浅井康宏教授が代読した。

第五回日本歯科医史学会総会（昭和五二年度学術大会）は、昭和五二年九月四日に、会長は中原實学長で、日本歯科大学で行われた。一般演題数二三。会長講演「本会の主旨に関する思い出ばなし」であったが、会長講演を中止し、「今田先生を偲んで」に変更した。

第六回日本歯科医史学会総会（昭和五三年度学術大会）は、昭和五三年九月三〇日に、会長は石川堯雄教授で、鶴見大学で行われた。一般演題数一七。特別講演Ⅰ「正法眼蔵の衛生思想―特に口腔衛生について―」鶴見大学歯学部長石川堯雄。特別講演Ⅱ「曲独楽・宗家松井源水と歯科―浅草寺一三五〇年に因んで―」鶴見大学歯学部教授松井隆弘。シンポジウム「歯学教育における歯学史の教授内容」司会…鶴見大学歯学部・中沢勇。

第七回日本歯科医史学会総会（昭和五四年度学術大会）は、昭和五四年一〇月二〇日に、会長は新国俊彦教授で、日本歯科大学で行われた。一般演題数一九。会長講演「佐藤運雄とその著書」新国俊彦。特別講演「歯みがきのラベル考と引札・看板」谷津三雄。

第八回日本歯科医史学会総会（昭和五五年度学術大会、会長…鈴木勝教授）は、第八一回日本医史学会総会（理事長…小川鼎三教授）と第二五回日本薬史学会総会（会長…木村雄四郎博士）と同時開催であった。この医歯薬学史合同総会（学術大会）を第八一回日本医史学会総会（会長…鈴木勝日本歯科医史学会理事長、副会長…谷津三雄）と呼称し、日本歯科大学大学院講堂を会場として、昭和五五年一〇月一日（土）、二日（日）の両日に行われた。

この日本で最初の医歯薬学史合同総会（学術大会）では、日本医史学会から古川明博士が「医学、歯学、薬学のシンボル

『蛇杖』、日本歯科医史学会から中国の周大成教授が「中国、口腔医学発展史」、薬史学会から伊藤和洋博士が「アユルヴェーダの薬物」と題してそれぞれ特別講演を行った。なお、周大成教授は、北京第二口腔科医院（現首都医科大学）の教授で、学会終了後、日本歯科医史学会名誉会員に推挙された。会長講演は「日本歯科医学発展の回顧」と題し、日本歯科医史学会理事長として誠にふさわしい講演であった。なお、一般演題数は五六であった。

第九回日本歯科医史学会総会（昭和五六年度学術大会）は、昭和五六年一〇月三十一日に、会長は多和敬一教授で、城西歯科大学（現明海大学）で行われた。特別講演は高麗神社宮司、高麗澄雄氏による「高麗郷の由来とその歴史」、会長講演は「戦後大学の厚生補導の歩み」であった。なお、一般演題数は一四であった。

第一〇回日本歯科医史学会総会（昭和五七年度学術大会）は、昭和五七年一〇月二三日に、会長は高木圭二郎教授で、東京歯科大学千葉校舎で行われた。特別講演は早稲田大学名誉教授、加藤諄先生の「仏足石について」、会長講演は「渡邊良齋先生の間像」であった。なお、一般演題数は一九であった。

第一一回日本歯科医史学会総会（昭和五八年度学術大会）は、昭和五八年九月一七日に、会長は久田太郎教授で、神奈川歯科大学で行われた。特別講演は神奈川歯科大学教授の小出義治先生の「安閑記、武蔵動乱とその考古学的推理」、会長講演は「結核の歴史」であった。なお、一般演題数は二三であった。

なお、第一五回日本歯科医史学会総会（会頭・白数美輝雄日本歯科医学会会長）と第七一回FDI年次世界歯学大会（会長・山崎数男日本歯科医師会会長）は、昭和五八年（一九八三）十一月一四から二〇日まで東京で開催された。本大会はアジア地区で最初のFDI年次世界歯学大会である。このうち十一月五日のジャパンプログラムⅡで長谷川正康教授が、日本歯科医史学会を代表して「日本における木床義歯の歴史」と題して講演を行い、反響を呼んだ。また、大会開催中の一六日から一八日の三日間にわたり、学術展示として「日本の歯学史展」を本学会が中心となり併催行事を行った。展示場の周囲の壁に日本における医歯薬に関する浮世絵を配した。また、会場中央のショーケースには、わが国固有のものと考えられる

木床義歯を展示し、その製作過程なども説明された。そのほか、お歯黒、楊枝、古医書も供覧された。印刷物としては「日本の歯学史」として学術展示物を二〇ページにまとめた『DENTAL HISTORY IN JAPAN』が配布された。この冊子は、西欧の医学史とは異なった日本独特の歯科医学に関する歴史的資料を原色写真入りの五ヵ国語版で作成したものである。初日は約一六〇〇名、二日目は約二〇〇〇名、三日目は約八〇〇〇名の参観者があり、大変に盛況で好評を博した。特に外国からの参加者は、展示内容に興味をいだき開場内で多くの質問を寄せていた。帰国後も十数名の先生から問い合わせの手紙も送られてきた。この大会が成功裏に終ったことは、日本歯科医史学会史上貴重な事実となった。

第一二回日本歯科医史学会総会（昭和五九年度学術大会）は、昭和五九年一〇月二七日に、会長は中原泉教授で、日本歯科大学新潟歯学部で行われた。特別講演は日本歯科大学教授の須賀昭一教授の「歯の古病理学」、会長講演は「Fauchard 書題の謎」であった。なお、本学会における一般講演二六題中八、一〇、一四、二〇が欠演となったが、最終演者の蒲原宏博士による「新潟の外国人医学教師とその業績」が錦上華をそえてきわめて有意義であった。

第一三回日本歯科医史学会総会（昭和六〇年度学術大会）は、昭和六〇年一〇月一九日に、会長は谷津三雄で、日本大学会館で行われた。特別講演に代えてと題して、「昭和初期の頃の学校歯科」という一六ミリメートル無声映画を上映し解説した。会長講演は「歯学教育における歯学史の教授内容」であった。なお、一般演題数は二九であった。

第一四回日本歯科医史学会総会（昭和六一年度学術大会）は、昭和六一年一〇月一八日に、会長は渡辺富士夫教授で、東北歯科大学で行われた。特別講演は東北歯科大学の島野達也教授の「斎藤茂吉と歯」、会長講演は「大正時代の歯科開業試験について―歯科開業試験答案集より―」であった。なお、一般演題数は三二であった。

なお、第一六回日本歯科医史学会総会（会頭：佐藤三樹雄日本歯学部部長）は、「新しい世紀の歯科医療を求めて」をメインテーマと定め、昭和六二年一〇月三日（土）、四日（日）、五日（月）、の三日間にわたり、ホテルニューオータニを学会会場として開催された。日本歯科医史学会からは総会講演に日本歯科大学の中原泉教授による「歯科口腔外科の軌跡―そ

の歴史的考察―」、テンプルクリニックに日本歯科大学の丹羽源男教授の「楊枝の今昔史」、日本歯科大学歯学部の大橋正敬教授の「明治時代の歯科器材」、東京歯科大学の長谷川正康教授の「歯磨きの歴史」およびポスターセッションに新藤恵久理事の「木床義歯の製作法」が発表された。

第一五回日本歯科医史学会総会（昭和六二年度学術大会）は、東京歯科大学の金竹哲也教授を会長とし、日本歯学会館で、第一六回日本歯科医学会総会の前日の一〇月二日（金）に開催された。特別講演は高添一郎教授による「私の歯学史考―歯学の未来を考える」であった。なお、一般演題数は四七であった。

第一六回日本歯科医史学会総会（昭和六三年度学術大会）は、昭和六三年一〇月二二日に、会長は滝口久教授（日大松戸歯学部）で、日本歯学会館で行われた。特別講演は谷津三雄による「歯学史集談会のできるまで」、会長講演は「日本歯科大学山田顕義先生と医学」であった。なお、一般演題数は四〇であった。

第一七回日本歯科医史学会総会（平成元年度学術大会）は、平成元年一〇月二二日に、会長は日本歯科大学長中原爽先生で、日本歯科大学歯学部附属病院で行われた。特別講演は中原泉教授による「医の博物館オープン」であった。なお、本学会でポスターセッションが行われた。一般演題数は六一であった。

第一八回日本歯科医史学会総会（平成二年度学術大会）は、平成二年九月二九日に、会長は愛知学院大学名誉教授榑原悠紀田郎先生で、日本歯学会館で行われた。シンポジウムとして「歯科医学概論のルーツを探る」（司会…会長榑原悠紀田郎）が行われた。なお、一般演題数は四〇であった。

第一九回日本歯科医史学会総会（平成三年度学術大会）は、平成三年九月七日に、会長は大阪歯科大学名誉教授筒井正弘先生で、大阪歯科大学で行われた。特別講演は野田寛教授による「明治以降における歯科医事法の変遷」、また、会長講演は「木床義歯について」であった。なお、一般演題数は四三であった。

なお、第一七回日本歯科医学会総会（会頭…森政和大阪歯科大学）は、「科学と心の歯科医療を求めて―発展と調和―」を

メインテーマと定め、平成三年一〇月二六日(土)、二七日(日)、二八日(月)の三日間、ロイヤルホテルを学会会場として開催された。日本歯科医史学会からは、総会講演として谷津三雄が「史料にもとづくわが国の歯科医学史」、テールクリニックに杉本茂春(日本歯科医史学会名誉会員)の「人類とともに歩む抜歯鉗子」およびポスターセッションに山賀禮一(阪大名譽教授)の「お歯黒」、石橋肇ら(日大松戸歯学部)の「歯みがきのラベル考」、中原泉ら(日本歯科大学)の「歯刷子ロードを辿る」、長谷川正康(東京歯科大学)の「歯科用治療器械の変遷..特に切削器械について」および新藤恵久(日本歯科大学)の「木床義歯の起源と完成について」などが発表された。

なお、第一回歯学史集談会(昭和四二年一月二八日)から、日本医史学会総会、日本歯科医史学会総会の開催月および八月を除き毎月例会を行っており、平成三年一二月で二二五回を数えている。

(日本大学松戸歯学部)